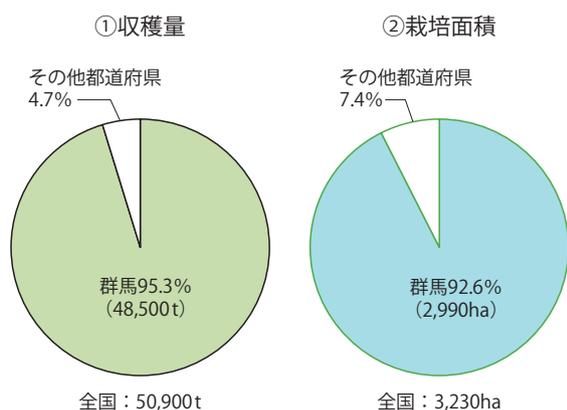


群馬はこんにゃくいもの収穫量・栽培面積で全国トップ

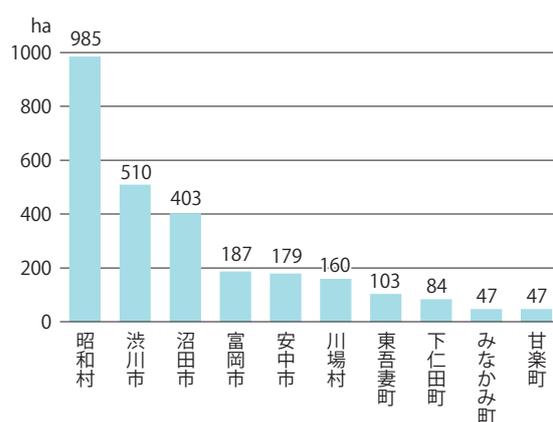
- 群馬は、こんにゃくの産地として知られている。統計で見ると、こんにゃくいもの収穫量は、48,500トンで全国の95.3%を占め、栽培面積でも、2,990ヘクタールと、全国の92.6%を占める（図表1）。
- 市町村別では、昭和村の985ヘクタールをはじめ、渋川市、沼田市の北毛地域が上位を占める。こんにゃく加工品で有名な下仁田町は8位であった（図表2）。
- 本県は、①冷涼な気候で水はけが良い立地、②群馬県による耐病性・生産性の高い品種の普及、③北毛地域をはじめとする機械化に伴う栽培面積の大規模化等から、日本を代表する生産地となっている。
- 群馬県農政部ぐんまブランド推進課によると、海外での認知度の高まりから、本県のこんにゃく加工品の輸出金額が増えており、今後は健康志向の強い欧米の富裕層向けに輸出促進を図る方針であるという（図表3）。

図表1 都道府県別こんにゃくいもの収穫量・栽培面積（2023年）



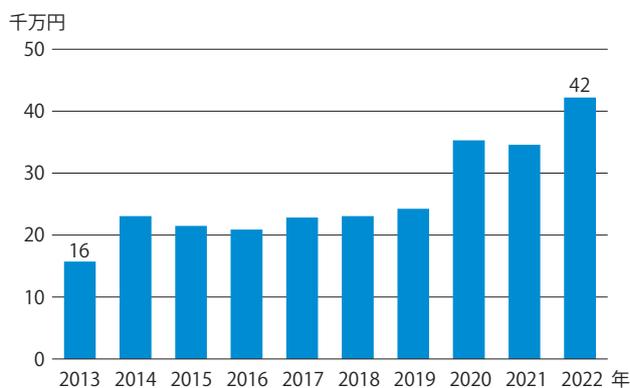
資料：農林水産省「特定作物統計調査」

図表2 市町村別こんにゃくいも栽培面積（上位10位、2020年）



資料：農林水産省「農業センサス」

図表3 群馬県産のこんにゃく加工品の輸出金額



資料：農林水産省「こんにゃくをめぐる事情」

注：群馬県内の企業からの聞き取り調査であって、全ての企業の輸出動向を把握しているものではない。

【一口メモ】

「一般財団法人日本こんにゃく協会」と「全国こんにゃく協同組合連合会」は、毎年5月29日を『こんにゃくの日』としている。こんにゃくの作付けが5月に行われることや、本格的な夏を迎える前に、こんにゃくの効用や機能性を再確認して健康に過ごしてほしいという思いも込められているそうだ。

(担当：丸岡美智世)